

立命館大学 日本文化情報学教室で 図書館建築についてのお話

平成29年12月20日

「図書館施設の計画」について 図書館のあり方を、どのように形にあらわすか。

寺田大塚小林計画同人代表 寺田芳朗

「こと」と「もの」／活動と場のデザイン

1. 「図書館とはなにか」ということを、はじめに確かめてみる。

※ 図書館はなぜ造られたのか。他方、個人は、なぜ学ぶのか、どう学び続けるのか。

① 図書館のめざすもの。

- ・ 背景にある教育基本法の読み方、社会教育政策としての矜持。
- ・ 「アメリカ社会に役立つ図書館の12箇条」

② 社会システム・社会インフラとしての図書館。

- ・ ひとつの建築のことではない。サービスのしくみ。「成長する活動と場のしくみ」。
- ・ 「明日の田園都市」のハワードが都市を語る時、電力ネットワークや図書館システムを例示。

③ 戦後の図書館政策の3原則、図書館の3要素。

- ・ 貸し出し利用／子ども奉仕／全域平等奉仕、の重視。
- ・ 本（資料・情報）／人（司書の専門性）／施設（機能性と成長性）。
- ・ サービス指標：登録率、町民一人一年貸出密度、リクエスト総数、レファレンス総数、資料費、
- ・ 「図書館システム」への成長の視点と意志が欠けると図書館ではなくなる。

※ 図書館建築が、図書館の成長の足を引っ張ることが無いように造れるのか。

④ 図書館がカフェになってゆくことを喜ぶ人々（市民）も居る、時代について。

- ・ 専門性／市民性／ひろば性／地域性。そして改めて、資料と司書と施設の専門性について。
- ・ 市民が専門性を認めて共感する「開架室の資料世界構築と世界表現」に向かっているか。
- ・ ……ブラウジングの魅力とはなにか。……シーケンス／物語性のある構成とは、

2. 図書館システムのネットワークセンターとしての公共図書館の建築計画

① 建築計画の前の、大切な政策のプログラムを知る。

- ・ 設計の前に、「図書館基本構想や図書館基本計画」というプログラムがある。
- ・ プログラムを読むこと、要望を聞き目標を想像することの大切。

② 事例「多良見町立図書館基本計画」を見る。

- ・ 人口 17300人のまちの図書館基本計画は、町民達の手で書かれている。
- ・ その後段で、図書館建築に求める条件が書かれ、設計競技が起こされる。

3. まちの図書館づくりの事例から、図書館建築を想像する。

① プロポーザル（コンペ）で提案したこと。

- ・ 提案すべきことを確かめて、プレゼンテーション。設計はコミュニケーションの形。

② たらみ町立図書館の計画と設計。

- ・ 竣工後の自主製作パンフレットで、ソーニングや諸室をお示しします。

③ 「活動と場のしつらえ」について。

- ・ 3340㎡のしつらえ。スライドショーで、建築と利用の様子をお示しします。

4. ご質問をうけて、お話をしたいと思います。

〇プロフィール：

〔たらみ、よしろう / 寺田大塚小林計画同人代表取締役〕
1978年横浜国大大学院修了、都市設計・建築意匠専攻。
大学在学時に故佐藤仁教授に図書館計画の薫陶を受ける。
和設計事務所・山手総合計画研究所在籍中に設計/監理を
担当した図書館は、神奈川県大磯町立、福岡県刈田町立、
佐賀県伊万里市民、沖縄県名護市立、滋賀県愛知川町立、
同人設立後、埼玉県小川町立、千葉県君津市立中央、
長崎県たらみ図書館、2009福島県南相馬市立中央図書館。
学校図書館を中心にした都文館夢学園校舎の計画と設計。
大分県竹田市図書館基本構想、多摩市図書館基本構想。

※ ホームページで竣工後の図書館写真を公開しています。

掲載誌・出稿資料として
「建築設計資料7 図書館」 建築資料研究社
「現代建築集成 図書館」 メイセイ出版
「S D別冊31：本と人のための空間」鹿島出版
「建築ジャーナル967：図書館が街を変える」建築J
「見て聞いて撮ったアメリカの図書館」TRC
「白夜の国の図書館・パート1、3」リブ出版
「刈田町立図書館の3000日」リブ出版
「図書館づくり運動実践記」緑風出版
「建築設計資料集成総合編」日本建築学会
「浦安図書館を支える人びと」日本図書館協会
URL: <http://www.geocities.jp/tokdojin>

1. は、建築学科の学生が、
設計演習で、初めて図書館
を学ぶときにするお話です。
・ 図書館は建築のことではない。
・ 図書館は成長変化しつづける。
・ 図書館員と向き合う事の大切。
をつたえます。

今日はさらっと通過します。

2. は、大切なプログラム。
成長の方向性、20年30年後
に困らないよう設計条件を
確認し計画をします。

3. は、設計のプロセス。
多くの共感を確かめながら
設計を形にしてゆきます。

竣工の様子、利用の情景を
スライドでお見せします。

※ 私たちは、図書館と図書館建築にどう向き合おうとしているか

図書館建築計画を「もののデザイン」と「ことへのデザイン」と意識して、とらえ直して
みるとよい。あたらしく出会う図書館づくりの始まりには、「どうつくるのか」の前に
「なぜつくるのか」を尋ねたり自問自答してもいい。私達には墨守する建築作法がない
証拠だろう。経験や知識に寄りかかると、流行からは、頑迷だとののしられて不安にも
なる。某先生は、「図書館員も建築家もProfessionと呼ばれる職業の部類に属している
筈のものだ。」とある。「学びつづける専門職として、互いに信頼し協働するプロセス
に結果が出るはずだ。」と設計作法を示してくれている。

そこで、「どんな図書館が作りたいですか」と、建築環境と資料世界が重ね書きさ
れた図を作り、話しのきっかけにテーブルに出してみることを重ねてきた。これを耕し
ながら、設計をすすめてきた。

人と同じように本の居心地を考える。それぞれの主題の群の大きさ、つながりかた。
これが建築の場の繋がりがシーケンスとうまくかさなることを目指している。主導権や
決定権は図書館員側にある。そうして、私たちは場を造ってお仕舞い。図書館員は資料と
場を長く育て続ける訳で、折々に連絡しては「その後」を教わることになる。そして
「その後」を知る努力も「成長する図書館」の設計には大切に思われる。

この四半世紀、お手伝いした5つの図書館で、話しの種として作り、いまでも生きて
いる配架図を見て頂こうと考えた。長く責任を負う図書館員と、図書館を愛する設計者
が、図面をまん中に話し合う情景を想像してみてほしい。PFIや指定管理者委託が最先
端のいまとなつては、時代遅れの、図書館づくりの作法と言われるかもしれないが。
(出典：日本図書館協会第36回建築研修会テキスト)

<ノート・メモ>

※ 大切な時間的要素、ブラウジング と シーケンス

- ・ ……彫刻ではなくて音楽や物語のように。（ゲーテ）
ブラウジングが豊かになる環境のしくみ、しつらえ。
環境のつながり、みちゆき、資料世界のおくゆき、

- ・ 配架について図書館員と設計者が共感して開架室をしつらえる。
- ・ 上記研修会でお話した4図書館の開架の資料をご覧ください。